

全般	計画	土づくり	苗づくり	植付け	初期	中期	後期	収穫	調製	出荷
----	----	------	------	-----	----	----	----	----	----	----

草地等の適正管理

規範項目46

必須・重要・推奨

安

草地における適正な除草等

草地では、他の農作物の場合と違い除草剤の散布や耕起の回数が少なく、雑草の発生・繁殖が懸念されますので、積極的に雑草の除去に努めましょう。

取組事項

- ・ 草地では、有毒植物の抜き取りや防除による除去に努める。
- ・ 除草剤を散布するときは、散布後の採草や放牧予定等を踏まえ、天候や風向き、雑草の生育時期に留意し、適正量を散布する。
- ・ 牧草を販売・譲渡するときには、生産地等の情報を伝える。

全国的に、輸入穀物等に混入する雑草種子が家畜ふん等を通してほ場に侵入し、定着後に繁殖して蔓延するなど問題になっています。

繁殖力の旺盛な強害雑草が侵入した場合には、飼料作物の減収や、生産された飼料の採食量の減少、有害植物による中毒の発生などの問題が生じます。

例えばトウモロコシでは、① 強害雑草であるイチビが20本/m²以上で30%の減収(図1)、② トウモロコシサイレージにイチビが5%混入すると、乳牛育成牛の採食量は半分以下となり、10%の混入で全く食べなくなるなどの影響が知られています。

また、家畜は通常、有害な植物は採食しませんが、草量が不足し、サイレージや乾草に混入した場合には採食することがあり、一定量以上採食した場合、中毒を起こすことがあるので特に注意が必要です(図2)。

【有毒植物等の除去】

雑草は裸地に侵入しやすいので、草地では牧草密度の維持により増殖を抑えることが基本です。しかし、雑草の侵入が見られた場合、飼料作物の減収や有害植物による中毒の発生などを防止するため、抜き取りや薬剤の局所散布等による早期防除など、積極的な除去を行う必要があります。

なお、中毒予防には、抜き取りなどによる除去の徹底や牧柵で囲い採食しないよう隔離することも必要です。特に新規に造成した草地や野草地で発生が多いので気をつけましょう。

【除草剤使用の留意点】

除草剤による雑草防除にあたっては、雑草の種類や発生量を把握して除草剤を選択し、散布後の採草や放牧の予定等に支障が生じないことを確認した上で行いましょう(表2)。

【生産情報の提供】

平成23年の東日本大震災に伴う原子力発電所事故により、飼料に関しては放射性セシウムの暫定許容値が設定されました。

富山県内の空間放射線量等に異常は見られず、県内で生産されている飼料は問題がないものと考えられます。今後も国や県の指導等に注意するとともに、出荷する際には、購入者に富山県内で生産されたものであることなど、的確な情報提供に努めましょう。

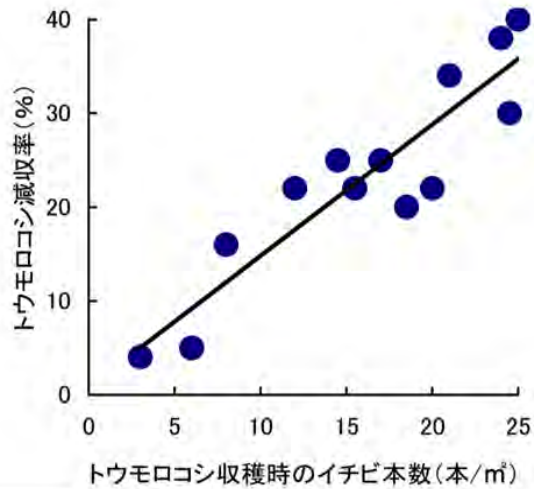


図1 収穫時のイチビ本数とトウモロコシ収量の関係
出典:長野県畜産試験場「飼料畑の強害雑草9選(H11)」



図2 有毒植物および強害雑草の例 (毒:有毒植物、強:強害雑草)
(出典)

農研機構動物衛生研究所HP(<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/poisoning/plants/contents.html>)
農研機構畜産草地研究部門HP(<http://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/weedlist/index.html>)

表2 主な強害雑草と除草剤処理の例

強害雑草の種類	適用薬剤		
	土壌散布	茎葉散布	収穫後散布
アレチウリ (ウリ科・一年生)	アトラジン・メトラクロール+ニコスルフロン		
イチビ (アオイ科・一年生)	アトラジン・メトラクロール+ハロスルフロンメチル		
オオオナモミ (キク科・一年生)	アラクロール+ベンダソンナトリウム塩		
ヒユ類 (ヒユ科・一年生)	アトラジン	ニコスルフロン	
ヒルガオ類 (ヒルガオ科・多年生)	アトラジン・メトラクロール+ハロスルフロンメチル		グリホサート
ワルナスビ (ナス科・多年生)			アシユラム

「平成29年度 飼料作物の栽培・技術マニュアル」富山県農林水産部

【根拠法令等】

- 草地管理指標〈草地の維持管理編〉(平成18年度農林水産省公表)
- 放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について(平成23年農林水産省通知)